

〔日本紀略八〕永觀二年八月廿七日、受禪略○中、以懷仁親王一爲皇太子、十月十日丙戌、天皇卽位於大極殿、

〔日本紀略九〕寛和二年七月十六日壬午略○中、今日立親王三爲皇太子、廿二日戊子、天皇卽位於大極殿、

〔日本紀略十二〕寛弘八年六月十三日乙卯、一條院天皇逃位於新皇三、春秋三十二、又立第二敦成親王一爲皇太子、十月十六日乙卯、天皇卽位於大極殿、

〔日本紀略十三〕長和五年正月廿九日、立先皇三第一皇子式部卿敦明親王一爲皇太子、二月七日壬午、天皇卽位於大極殿、

〔百練抄四〕冷泉、寛德二年正月十六日、受禪略○中、是日立尊仁親王三爲皇太子、四月十日、卽位、

〔百練抄五〕延久四年十二月八日、受禪、是日立實仁親王爲皇太弟、同廿九日、卽位、

〔一代要記八〕久壽二年七月二十四日、於高松殿受禪、同十月二十六日、卽位大極殿、

久壽二年九月廿三日爲皇太子、

〔増鏡十一〕今日の日隆、永仁も六年になりぬ略○中、新院宇多の若宮二後、生れさせ給へりし略○中、八月十日春宮にたち給ぬ略○中、内伏見よりは御年三まさり給へり、

〔増鏡十二〕浦千鳥、德治二年にもなりぬ略○中、八月廿六日踐祚なり略○中、花園、帥のみこ醍醐後の御事を、あづまへのたまひつかはしたる、さうゐなしとて、九月十九日、立太子の節會ありて坊に給ひぬ略○中、十一月十二日御卽位、

〔皇年代略記後小松〕永徳二年四月十一日、受禪今日先立太子、十二月廿八日壬寅、卽位、